

『街場の教育論』

内田樹著／ミシマ社

著者の内田樹（うちだたつる）先生は、長らく神戸女学院大学で教鞭を執られ、昨年度退職された「日本の正しいインテリ・リベラルおじさん（自称）」です。そしてその実は、思想家、武道家、翻訳家と多彩な才能をお持ちの方です。

私がウチダ先生を知るきっかけになったのは、関西地区限定で発行されています雑誌「ミーツ・リージョナル」での連載コラムでした。この雑誌をご存知の方おられますか？三年程前まで長岡駅前にありました大阪出身の店主が経営していたアジア料理店では、毎月この雑誌を購読していて、たまたま手に取ったのが最初です。コテコテの大阪ネタだったり、京都の最新クラブJAZZシーンのレポートだったり、面白記事満載なのですが、特にこのコラムでは、政治、経済、教育、映画から漫画に至るまで多彩なテーマを取り上げ、独自の語り口で諸問題に対する議論がテンポ良く展開されていました。かなり込み入った問題がテーマとして取り上げられていることもあるのですが、これまでに体験したことのないスルスルと読めてしまう独特の文体が心地よく、すぐにファンになりました。毎月最新号が出るのを楽しみにして、そのアジア料理店に行くのと読み入るようになりました。

ここでご紹介する『街場の教育論』は、ウチダ先生が2007年度の大学院の講義の内容を原稿に起こしたものに、加筆した内容になっているとのこと。「はじめに」でこの本は教員に向けて書いたとありますが、講義で取り上げた内容だったわけですから、本学の大学院・学部学生の皆さんにとっても十分楽しめるものになっていると思います。

これまでにウチダ先生の著書『ためらいの倫理学』と『おじさんの思考』を読んできましたが、実はどの本も同じことを言っています。というか、ご本人もブログでそう言っていました。すなわち、社会のフルメンバーたる【成熟した大人】になれという強烈なメッセージが響いてくる、という事です。『街場の教育論』では、もちろん教育問題に特化した内容も述べられていますが、ご多分に漏れず、言いたいことは【大人になれ】ということなんだなあ、と強く感じました。

私はウチダ先生の「当たり前のこと」を「当たり前」に述べている姿勢に、なんだかとても安心感を覚えます。【成熟した大人】になるために、良く勉強しなさい、とか親や親戚を大事にしなさい、とか、周りの人に優しくしなさい、とか。ここまでハッキリと言ってくれる人、あまりいませんよね。なんだか当たり前すぎて口に出すとチョット恥ずかしいし。でも良く考えてみてください。皆さんの周囲でそんなことを聞くこと、ありますか？テレビ、ラジオ、インターネットなどの情報媒体でそのような「あたりまえ」のことを、あの手この手、切り口を変えて述べてくれる人って居ます？

生きていく上で当たり前のことを大上段に構えて語る。そういえばこれって宗教ですね。お坊さんの説法ってこんな感じですよ。キリスト教でも「隣人を愛せよ」なんて言ってるし。実は神戸女学院はキリスト教の教えを建学精神の基盤として持っているから、ウチダ先生の論法が宗教的なのは当たり前なんですね。この本でも最後の方に宗教と教育についてかなり詳しく論じられています。

この本は「教育論」ですから、そもそも学校とはどのような場所なのか？大学で学ぶべきことの本質とは何か？といった根本的な問いから始められています。また、師を持つことの重要性、近代における教育問題（学力低下、いじめ）の構造、等について独特の議論が展開されていきます。なるほどね、こんな考え方もあるのね、と目から鱗です。

皆さん「何のために大学で講義受けてるのかな？」なんて思う事ありません？その答え、日本を代表するインテリ・リベラルおじさんからのメッセージとしてこの本に書いてありますよ。

執筆者紹介

黒木雄一郎

電気系助教。専門領域は、材料工学。

『書名』	著者名	翻訳者名	出版社または文庫・シリーズ名	出版年	税込価格
『街場の教育論』	内田樹著		ミシマ社	2008年	1,680円

[ブックガイド目次へ](#)